

大館の歴史散歩

戊辰戦跡を
歩く ④

扇田・山館合戦

十二所口の戦いで勝利を収めた南部軍総大将楢山佐渡は、八月十一日、扇田進駐を命じた。扇田に至る山崎街道には、先発隊により「南部領地」の標木が立てられ、その中を総大将佐渡以下千六十名が隊伍を組んで、午後四時に扇田に入った。

扇田に入った佐渡は、本陣を荒谷五助方に置き、別に寿仙寺を「南部公本陣」と定めた。また目付参謀藤根直機に、村役人を前に布告書を朗読させ、「慶応を廃し延寿元年、自今三年貢租免除」の高札を、村内主要個所に立てさせた。新しい支配者である南部軍を、扇田村の肝いり・役人らは、酒肴をもって歓



激戦のあった扇田神明社

待した。この歓待の中に、茂木筑後の「扇田奇襲の一計」が隠されていた。しかし、このもてなしに不安を覚えた佐渡は、深夜、市中見廻りと称して隊を小人数に分け、ひそかに本陣と定めた寿仙寺から扇田神明堂へ兵を移動させた。一方、午後六時に坂地を陣払いした茂木・須田隊二百余名は、四羽出で休息し、翌日午前零時ごろには倉下稲荷の境内に布陣。午前二時の奇襲攻撃の時を待っていた。

時来れり。須田隊は佐渡本陣へ、茂木隊は寿仙寺の南部軍本陣へ攻撃を開始した。しかし両陣とも扇田神明堂付近への移動を終了し、番兵を残しているだけであった。茂木・須田隊は南部軍残兵の掃討にあたりながら斥候を出し、南部軍の陣を探索せ報告を待っていた。

ほどなく「敵勢神明堂一帯に野陣」の報が入った。十二日午前四時、神明堂の佐渡本陣をめぐり茂木隊の攻撃が開始された。この戦闘が「第一次扇田合戦」であり、扇田の村は戦場と化した。十二所口での

敗戦の汚名ばん回をかけた茂木隊の攻撃はし烈を極めた。不意を突かれた南部軍は、陣容を立て直しつつ防戦の構えとなったが、米代川からの上陸に成功した須田隊が南部軍の背後から退路の遮断を図ったことにより乱れが生じ、佐渡は扇田引き上げを命じた。

この戦闘で南部軍のしんがりを務め討ち死にした十八歳の少年剣士和井内捨蔵や、銃弾に倒れ意識を失いながらも陣刀で大地をたたき続けた秋田藩士草薙重右衛門の戦いぶりが、第一次扇田合戦の語り草となった。

一方、米代川の対岸山館方面では、山王台に布陣していた十二所二隊と大館隊が、茂木隊の南部軍奇襲に呼応して南部桜庭

隊と戦闘に入った。これが「山館合戦」である。当初苦戦を強いられていたこの戦闘は、山館・沢口及び中山に布陣していた南部軍の主力が陣払いし、退却したことで終わった。この合戦では、単身十二所隊の応援に向かい討ち死にした槍術の達人青柳外記の奮戦が、後世へ語り伝えられている。

第一次扇田、山館合戦は、南部軍の退却によって終わったが、扇田村は二十日、南部軍の再進攻により報復攻撃を受けることになる。退却した南部軍は土深井の佐渡本陣で軍議を重ね、再進攻の日を二十日早朝と決定した。南部軍の反撃により茂木隊は総崩れとなり、日没には根下戸村へ退却を開始した。扇田

の村は南部軍の手で焼かれ、四百戸のうち六戸を残すのみであった。

これが「第二次扇田合戦」である。この合戦において、病弱の夫に代わり軍夫募集に応募、茂木本陣へ兵糧運搬中に銃弾に倒れた山城ミヨ（靖国神社女性祭神第一号）の悲劇が生まれた。第二次扇田合戦の秋田側の敗北は、大館落城への序章であった。



扇田寿仙寺に
山城ミヨ像

私の本棚

中央図書館新着図書

『子どもの読書の周辺』

水野寿美子 著 新日本出版社

「本との出会いの楽しさ」・「本好きな子供に育てるには」など、人間の暮らしの中で本とどうかかわりをもてばよいのか、豊富な事例を引きながらやさしく解いた読書論。



一般書

◇月蝕の道（三木卓）◇白い山（村田喜代子）◇きららの指輪たち（藤堂志津子）◇「幸福」行最終列車（西木正明）◇天に送る手紙（森敦）◇津田梅子（大庭みな子）◇クラウディ（辻仁成）◇ONE（リチャード・バック）◇真実の東北王朝（吉田武彦）◇銀河宇宙オデッセイ〔第1巻〕（NHK取材班）◇童具（和久洋三） ほか

児童書

◇平和の木（長崎源之助）◇人はなぜウソをつくのか（赤塚行雄）◇まん画家になるコツ21（山口太一） ほか

7月のテーマ関連図書コーナー 『宇宙』

親子読み聞かせ会

毎月第1金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日

7月26日、8月19日

市役所史跡探訪会